

卑弥呼の求めた世界

大阪府立弥生文化博物館

仙界伝説

考古学セミナー

時間=午後2時~午後4時
(1時から受付)
場所=1階ホール

※全回参加者には終了証と記念品を贈呈します。

●第1回/10月3日【日】

「世相を映す青銅鏡」

大阪府立山田古墳資料館(仮称)準備室主任 小山田宏一

●第2回/10月17日【日】

「古代中国の神話世界」

—星の中から解く「山海経」—

奈良大学芸術教授 伊藤 清司

●第3回/11月7日【日】

「道教と日本文化」

京都府立大学教授 和田 萃

●第4回/11月21日【日】

「仙人を語る」

館長 金岡 忍と学芸員

本館学芸員による展示解説

毎週日曜日と祝日(午前11時~特別展示室)

日中友好国際交流講演会

11月28日【日】 時間=午後2時~午後4時(1時から受付)
場所=1階ホール

「五千年前の神秘の王国」

—凌家灘遺跡の発見—

安徽省文物考古研究所主任 張 敬 国

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

10月2日【土】—11月28日【日】

主催=大阪府立弥生文化博物館/産経新聞社/関西テレビ放送
後援=大阪新聞/夕刊フジ/サンケイリビング新聞/ラジオ大阪 協賛=国際交流サービス/摂女子短期大学

●開館時間/午前10時~午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日/毎週月曜日(但し10月11日【月】開館、12日【火】休館)
●入館料/個人=一般600円・高大生400円・小中学生・65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料 団体=一般480円・
高大生320円(団体は20名以上) ●所在地/〒594-0083 和泉市池上町443 電話=0725-46-2162
●交通/JR阪和線「信太山」駅下車徒歩7分/南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分 ●駐車場/普通車80台、大型/バス7台無料

独特の造形の青銅器。あらゆる事物を模型にして納めた墓。

古代中国世界は神秘に満ちています。その背景には、人と神が一体になった壮大な思想が存在したのです。漢代には、それまでの奇怪な形の神々は姿を消し、西王母を中心とする神仙世界が信仰を集めるようになりました。遥か彼方にあるという不老不死の楽土、仙界。その伝説は卑弥呼を、そして倭の人々をも魅了したのです。

仙界伝説

② 墓中の来世

現実世界を縮小した数々の明器。墓室に満ちあふれる図像。それらは古代中国の死に対する観念を示しています。



羽人(仙人)の姿
[青銅鍍金銀羽人] / 漢



墓に納めた井戸の模型 [灰陶井欄] / 漢

① 車馬と楼閣を表した墓室を作るレンガ
[押型車馬楼閣条磚] / 漢



① 礼楽の世界

礼は序列を明確にすることであり、楽は和を保つものです。厳格な礼儀作法と、心を和ませる音楽。礼楽制度は、古代中国の規範となっていたのです。



上を向けて敲く楽器 [鐘(龍紋鐘)] / 商



龍紋で飾った食物を盛る器
[犧首龍紋簋] / 西周

③ 仙の思想

死を恐れた王侯たちは、不老不死の仙薬を求め仙界と接触を試みます。やがて、仙界のイメージは具体的になっていき、仙人たちの姿も人間に近づいていきました。

魂が宿る豆
① [青銅神豆] / 三国~西晋



② 酒を飲み、笛を吹く仙人
[仙人画像鏡] / 後漢



主な展示品

- 金メッキをした仙人の小像
- 虎の飾りをつけた太鼓 [虎鐃]
- 仙界の山を表現した香炉
[青銅禽龜飾博山炉]
- 龍が描かれた弥生土器
- 朱の採取に使った石器と土器 (弥生時代)

出品総数 約150点